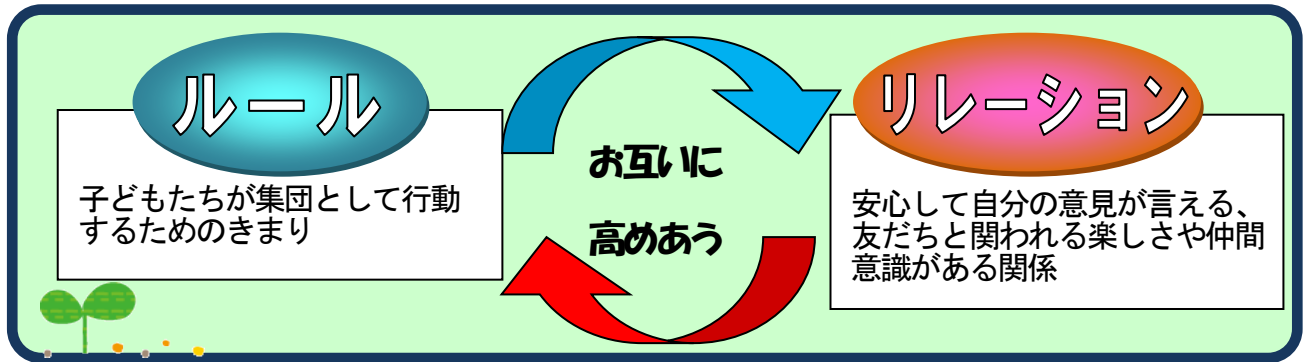


1 よりよい学級集団では、ルールとリレーションが確立している！

よりよい学級集団では、子どもが安心して過ごすことができ、他者とのかかわりの中で自らの良さを発揮できます。言い換えると、子どもが安心して過ごすことができるための「ルール」と一人一人の違いを認め支え合える「リレーション」、この2つが確立していることがよりよい学級集団づくりでは、大切だと言えます。



ルールの定着を図るポイント

ルールは、みんなで一緒に活動するためのベースになります。次の3つを意識してみましょう。

1.ルールとその意義を確認

- ルールは具体的にできそうなことにする
- **活動に入る前に確認する**
- **短時間の意識化を繰り返す**
- 掲示し視覚的に働きかける

2.ルールにそった行動をほめる

- **ルールを守れている子たちをしっかりと承認する**
- ゲーム等の活動でルールを守って活動したら楽しかった経験をさせる
- 逸脱行動に同調しがちな子をつくらない

3.逸脱行動には毅然と

- まずは**間**をとり、冷静になる
- **簡潔に毅然と**対応する
- 丁寧な個別対応は授業外の場面です

注意！ やってしまいがちな教師のNG行動

- 「このくらいは…」と見て見ぬふりをする
- 「今日は特別…」等の特例を度々認める
- 中途半端に対応してあきらめる
- 必要以上の厳しい叱責をする
- 授業中に逸脱行動を深追いし、頻繁に長々と授業を中断する

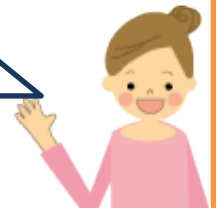
ルールの定着に向けた対応の具体例



授業がすぐにスタートできたら、活動時間がたくさん取れます。学習用具は休み時間のうちに机の上に出しておきます。

→短く、わかりやすく「ルールを守るよさ」を伝える。

今日は20人もできました。みんなで声をかけあって嬉しかったです。合格シールがたまったら、クラスでイベントをしようね！



→朝の会で確認し帰りの会で振り返る。目標が達成できたら、楽しい会を企画させるなどして、守ることを楽しさにしていくよう工夫する。



今の行動はルール違反です。すぐやめなさい。話がありますので、後で相談室に来なさい。では、授業を進めます。

→わざと声のトーンを変えたり、間をとったりすることで場の雰囲気を変える。

ルールは小さなところからほころんできます。小さなことでも確実にやるという先生の姿勢を示すことが大切です。一部の子に指導している姿から周りの子も学んでいます。穏やかな先生だけと言うべきことは言う、ゆずらないラインはゆずらないのだと認識させるのです。

リレーションづくりのポイント

子どもが最も長い時間を過ごすのは授業です。特別なことをするのではなく、日々の授業でのかかわりを少し意識することで、リレーションづくりができます。

1. 教師の働きかけ

- 発言やがんばり、よさを多面的に認める
- 目立たない子の意見もとりあげる
- 間違った答えも大事にする
- 友達の意見にうなずいたり拍手したりするよう促す等

2. 場の工夫

- 自分の考えをペアやグループ内で発表する活動を取り入れる
- 授業の最後に、わかったことや感想、なるほどと思った友だちの意見を言う振り返りの場を設定する
- 朝の会帰りの会で、子どもたち同士認め合える場を設定する
- 一人一人に役割のある班活動を取り入れる等

3. ゲームやエクササイズなどの活用

- 学級○○大会
- グループ対抗○○合戦
- サイコロトーキング
- ビンゴ 等

学級活動を利用して、学級の楽しいイベントを子どもたちの手で企画させたり、授業の導入、朝の時間・帰りの時間などを利用してゲームや構成的グループエンカウンターのエクササイズに取り組んだりすることもリレーションづくりに有効です。

リレーションづくりに向けた取組の具体例

○○君、丁寧にノートとってるね。
○○さん、いい考えだね。みんなに発表してくれないかな。



→机間指導をしながら、目立たない子に個別に話しかけ、見守っていることを伝える。



今から、班で自分の考えを順番に発表してください。発表が終わったら、よかったところを伝えてください。
○○さんは、友達の隠れたいいところをしっかりと見ているね。感心したよ。

→できる子だけでなく、一人一人が注目され認められる場面に授業に盛り込む。
目立たない子を認める発言をしている子をほめる。

よーし、今から○○ゲームをするよ。
お隣とペアを組んで…

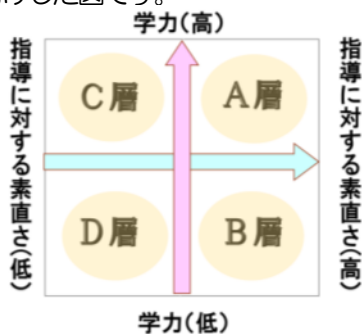


→ちょっとした時間を利用してできるゲームを取り入れる。
2人組4人組の少人数でできるものからがおすすめ。



コラム ターゲットはどこ?!

学級集団づくりでは、特別な配慮や支援を要する子どもと関係を作ることだけが大切なわけではありません。できるだけ多くの子から信頼を得ることが大切です。下の表は、学力と指導に対する素直さを軸にして、子どもをグループ分けした図です。



- A層： 学力は高く、教師の指導に素直
- B層： 学力は高くないが、教師の指導に中立か素直
- C層： 学力は高いが、教師の指導に反抗的
- D層： 学力は高くなく、教師の指導に反抗的



この中で、教師が支持を広げやすいのはどの層だと思いますか？

答えはB層です。

私たちは、つつい手のかかる子どもに目が行き個別対応に追われがちになってしまいます。しかし、B層には、まじめに勉強している子ども、

地道に頑張っている子どもがたくさんいます。**B層の意欲を喚起し、自信をつけさせ、大切にすることが学級経営の安定につながっていきます。**D層への対応だけが学級集団づくりではありません。